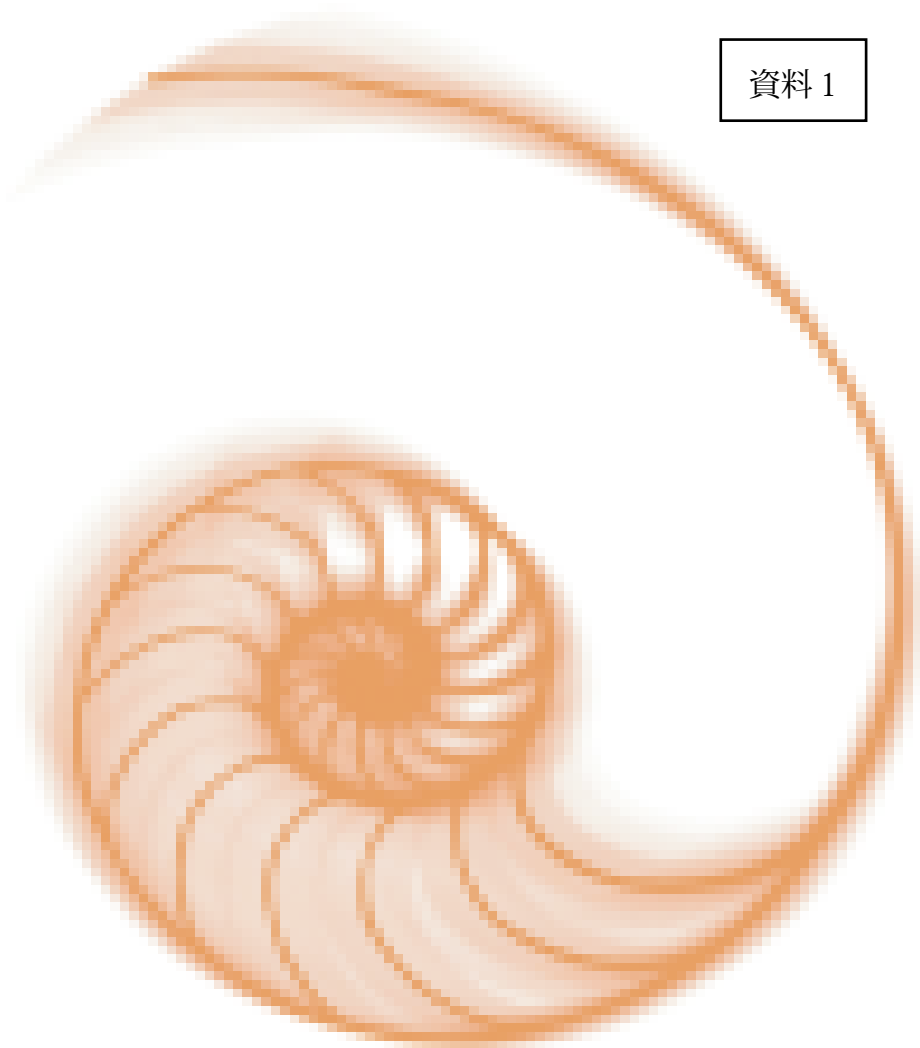


- AIを知る-

2026年8月4日
ネットイヤーグループ ファウンダー
世界経済フォーラム チェア・オブ・ジャパン
三井物産 取締役
セガサミーホールディングス 取締役
石黒不二代



1. AIを使う上で知っておくべきこと

- AIの歴史
- AIを俯瞰的に見る（レイヤーで考える）
- 誰が儲けるのか？

2. AIで職業はなくなるのか？

- 雇用への影響、Genderへの影響、産業への影響
- 職業はなくなるのか？重みの移動
- IT産業で起こっている不都合な真実

3. AI時代に求められるスキル

- AI時代に求められるスキル
- 教育・リスキリングの体制づくり

AIを使う上で 知っておくべきこと

AIの歴史 ／ AIを俯瞰的に見る ／ 誰が儲けるのか？

1950～70年代

概念誕生・記号AI

チューリングテスト提唱（1950）
最初のAIプログラム

1970～80年代

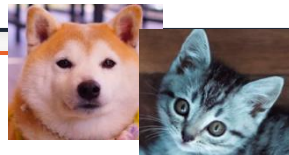
第1次・第2次AIの冬

期待過剰→資金枯渇
ルールベースの限界

1990年代

機械学習の台頭

IBMディープブルーがチェス世界王者に勝利（1997）



2012年

🔑 ディープラーニング革命

犬と猫を区別できた！（AlexNet）
Hinton・LeCun・Bengio

2017～20年

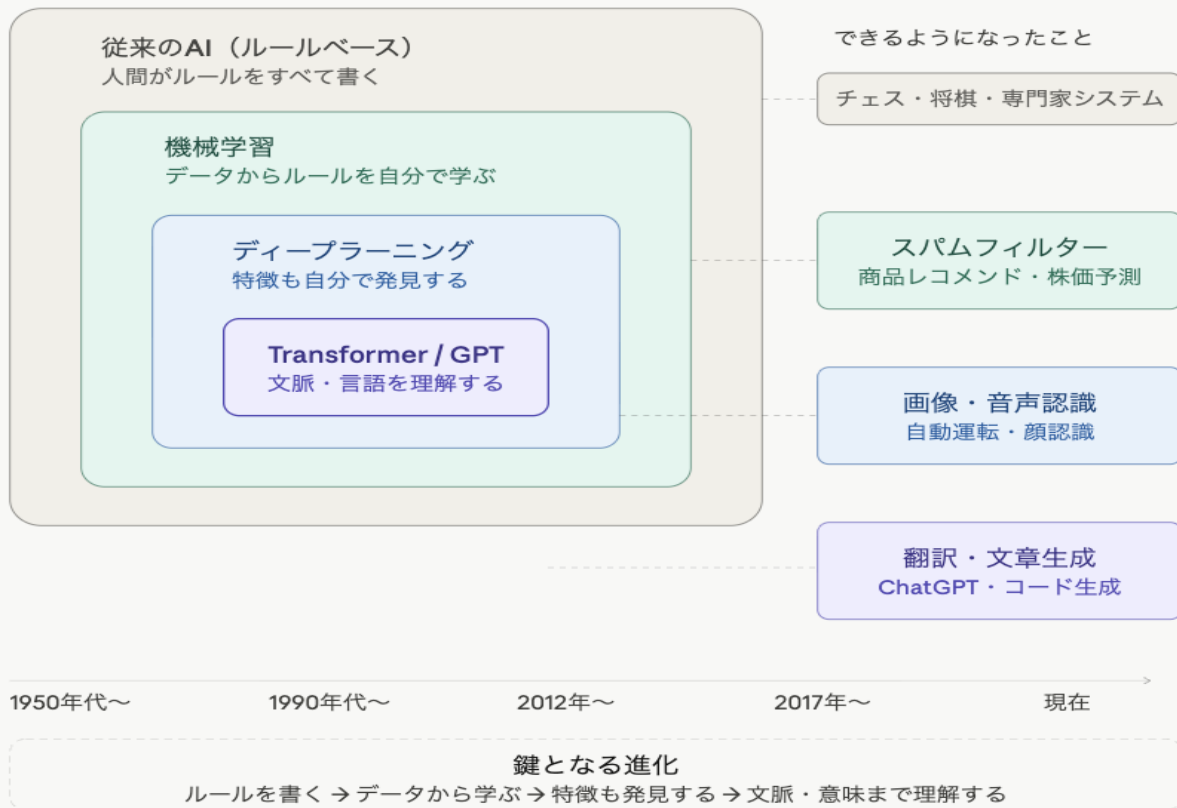
🔑 Transformer・GPT登場

「Attention Is All You Need」
言語を「理解」し始めた

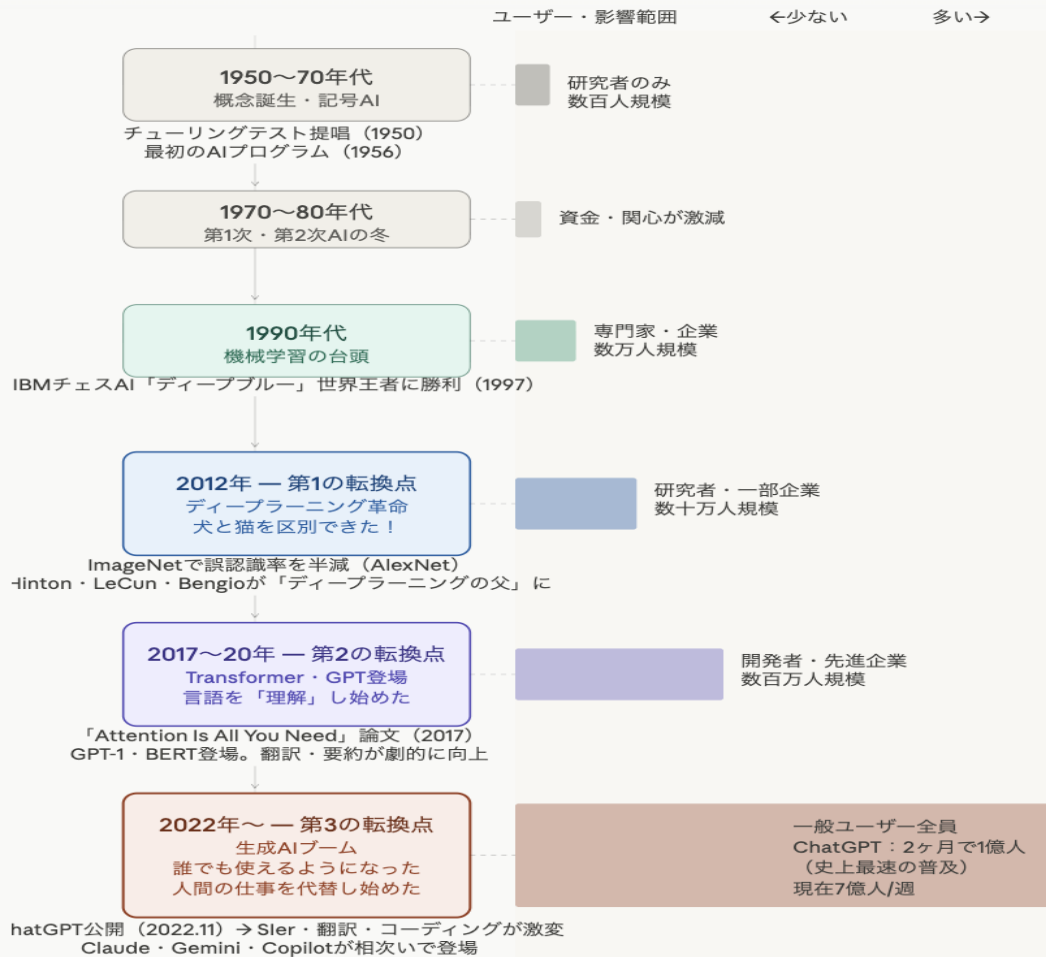
2022年～

🔑 生成AIブーム

ChatGPT：2ヶ月で1億人（史上最速）
誰でも使えるようになった



AIの歴史



現在ChatGPTだけで11億人
労働人口の17% 以上

非構造化データ



構造化データ

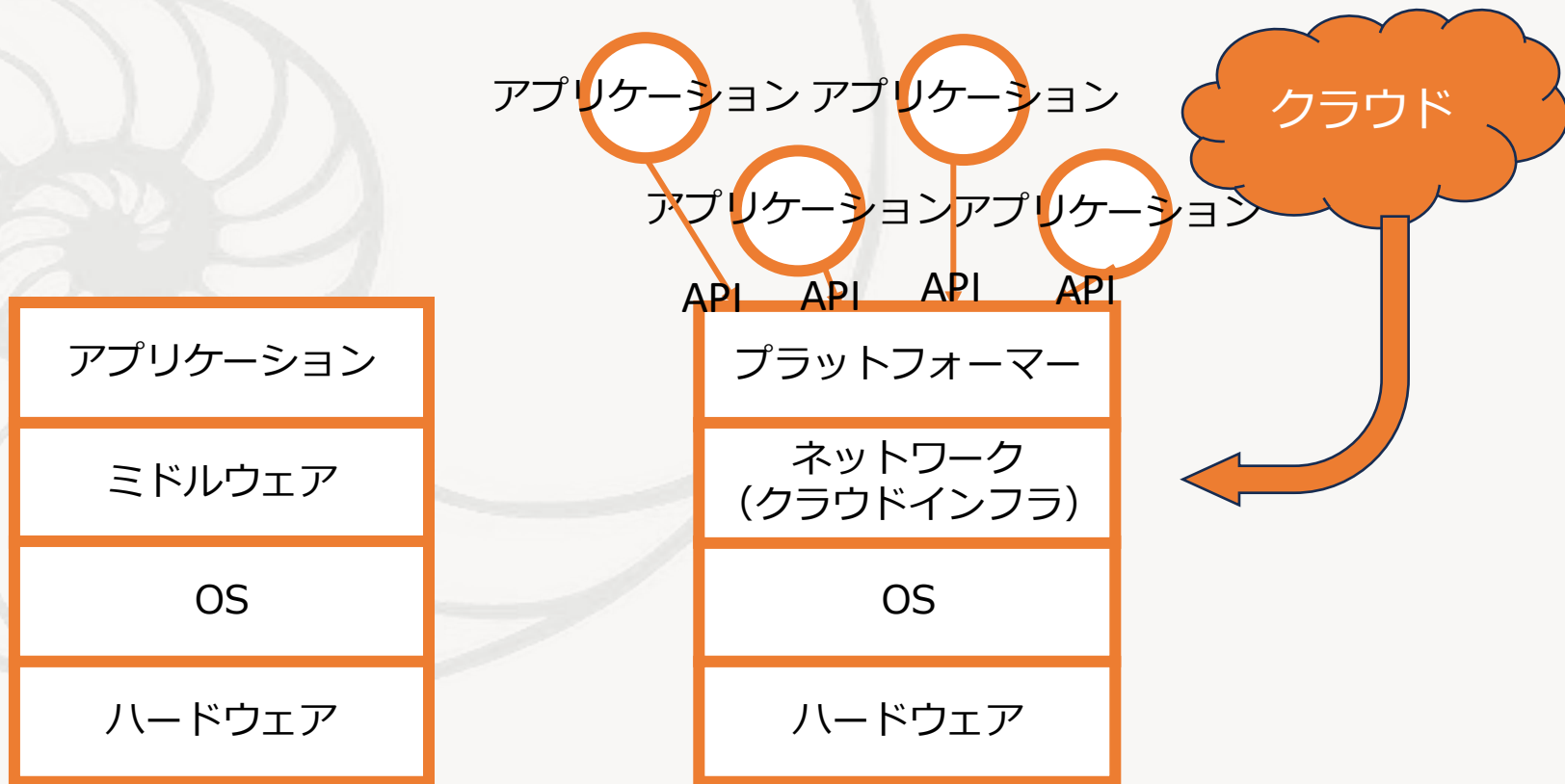
石黒不二代・千代田区千代田1-1-1



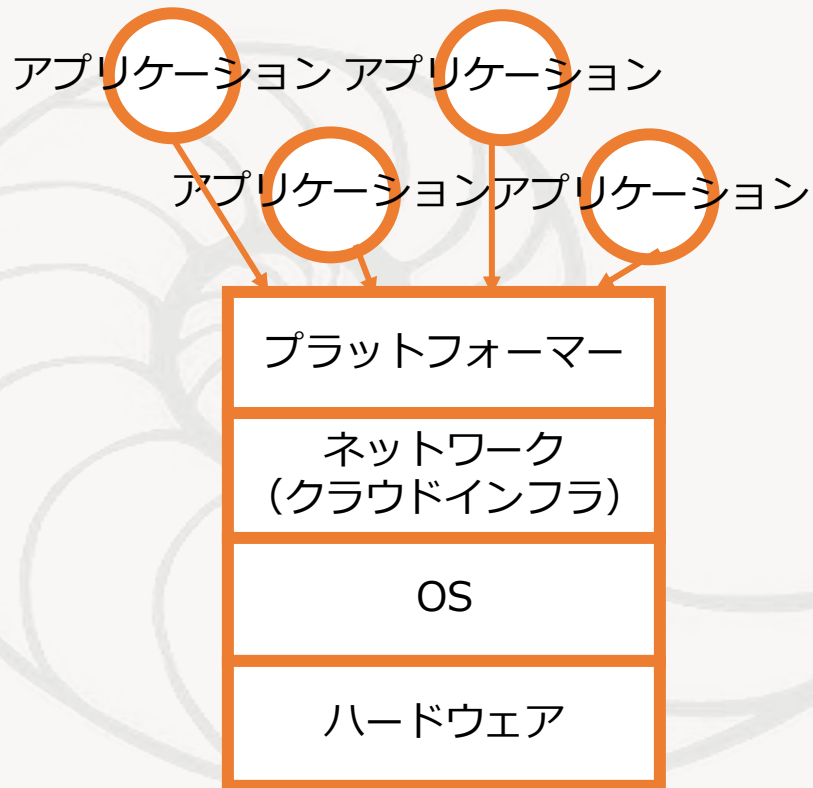
C265KVc8890

A screenshot of a Microsoft Excel spreadsheet window. The window title is "ホーム 挿入 描画 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示 自動化 Acrobat". The ribbon shows the "ホーム" (Home) tab with options for font (Arial, size 12), bold (B), italic (I), underline (U), and text color. The spreadsheet grid is visible with columns A through I and rows 1 through 13. The cell A1 is selected and highlighted with a green border. The formula bar shows "fx" and the cell address "A1".

単独のコンピューター ネットワークに繋がったコンピューター

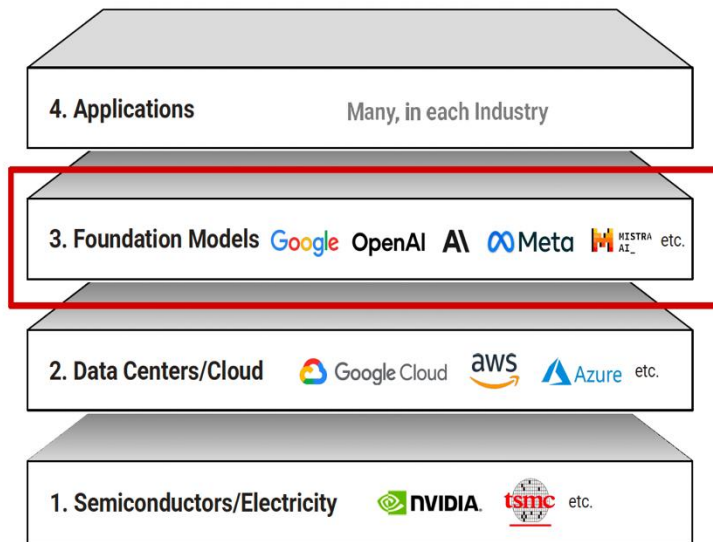


AIを俯瞰的に見る



AI産業を4つのレイヤーで捉える

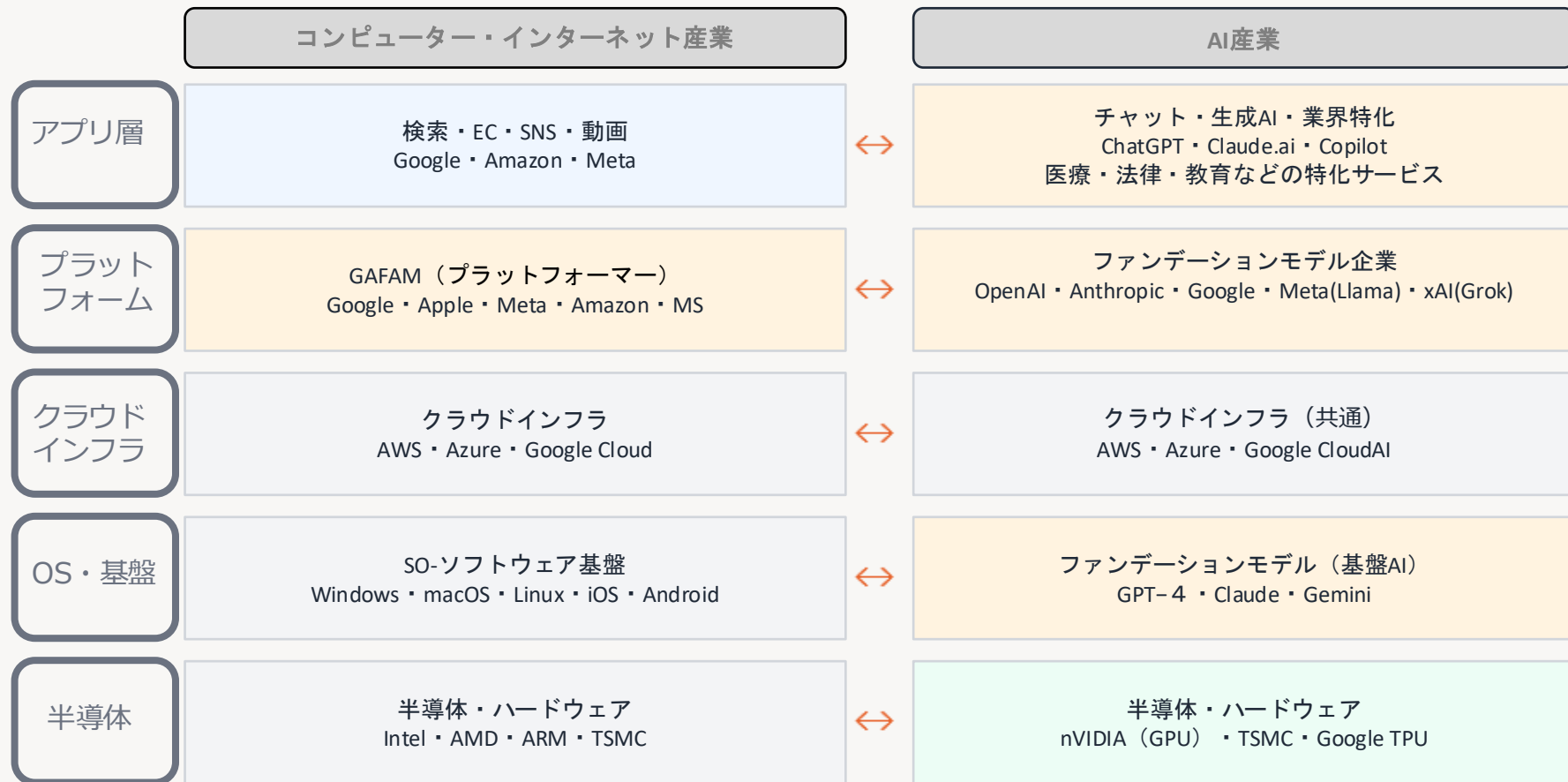
2023-24年の生成AIは、**基盤モデル (=Layer 3)** の性能向上が牽引



AIを俯瞰的に見る（レイヤーで考える）



AIを俯瞰的に見る（レイヤーで考える）



AIの発展は、コンピューターとインターネットと同様になる

Copyright © 2026 Fujiyo Ishiguro. All Rights Reserved

一体、誰が儲けるのか？

コンピューター・インターネット産業

アプリ層

検索・EC・SNS・動画
Google・Amazon・Meta合計 ~\$1.4兆/年
★★★ 最大の勝者

プラットフォーム

GAFAM
5社合計売上 ~\$1.6兆/年・時価総額~\$12兆
★★★ 圧倒的勝者

クラウドインフラ

AWS・Azure・Google Cloud
クラウド市場 ~\$0.9兆/年
★★☆ 大きく儲かった

OS・基盤

Windows・macOS・iOS
Microsoft ~\$2450億 Apple ~\$3910億
★★☆ 儲かったが主役交代

半導体

Intel・Cisco・ARM
★★☆ **そこそこ儲かったが主役交代**
By the way, TCP/IP発明者 (Cerf・Kahn) は賞金\$10万のみ
→「発明者が儲からない」典型例

AI産業

AI特化アプリ・業界サービス
企業向けAI支出 \$370億/年(2025)
★? 急成長中・まだ黎明期

OpenAI・Anthropic・Google
OpenAIは \$200億 (2025)
Anthropicは年間売上\$50億((2025) だが、2026年第2Qは\$109億
★★? 急成長・収益化はこれから

AWS・Azure・Google Cloud (共通)
AIインフラ需要で急拡大中
★★★ 確実に儲かっている

GPT・Claude・Gemini (基盤モデル)
OSに相当する「土台」になれるか?
★? 発明者が儲かるか最大の焦点

nVIDIA・TSMC
nVIDIA売上~\$1600億/年・時価総額~\$5兆
★★★ 今のところ最大の勝者→「発明者が儲かる」稀有な例

核心の問い：AIは「TCP/IP型」か「nVIDIA型」か？ インターネットはインフラ発明者が儲からず上位層が独占。AIは発明者（モデル企業）が儲かる構造か

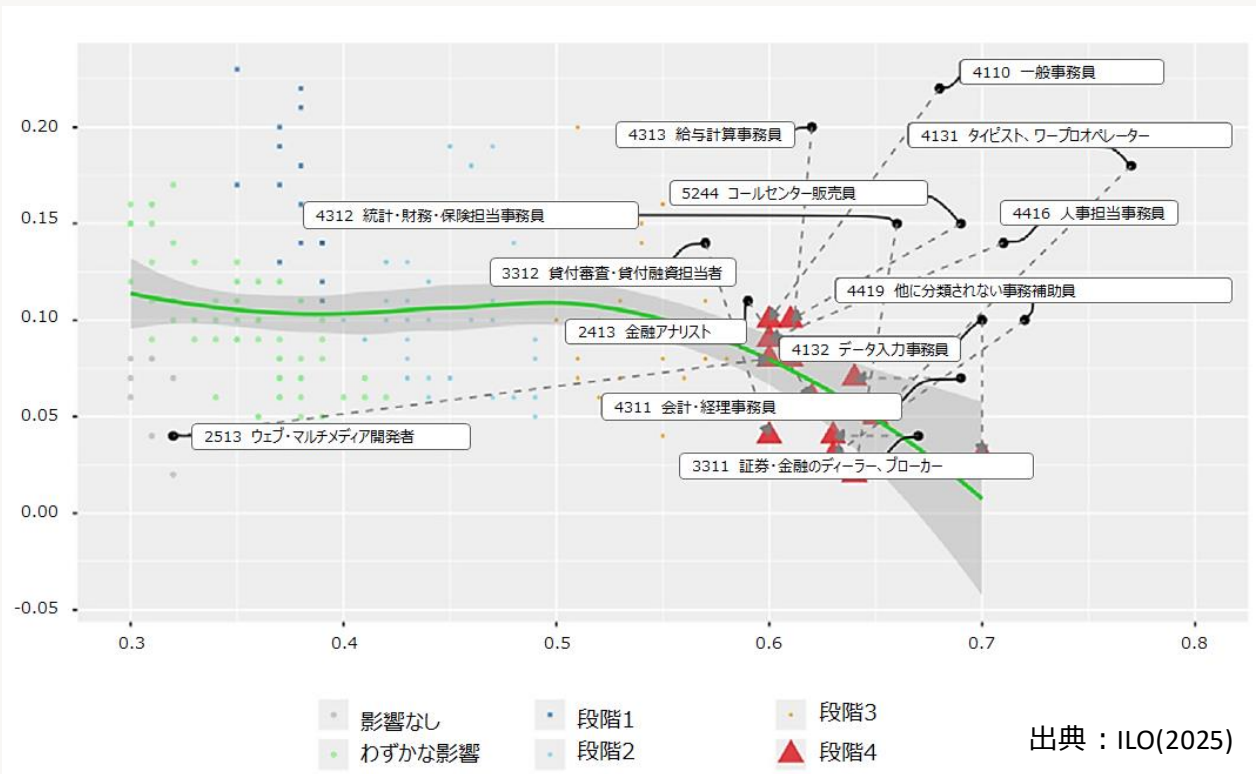
AIで職業はなくなるのか？

どんな職業がなくなるのか？ 果たして職業はなくなるのか？
重心の移動—全体の設計

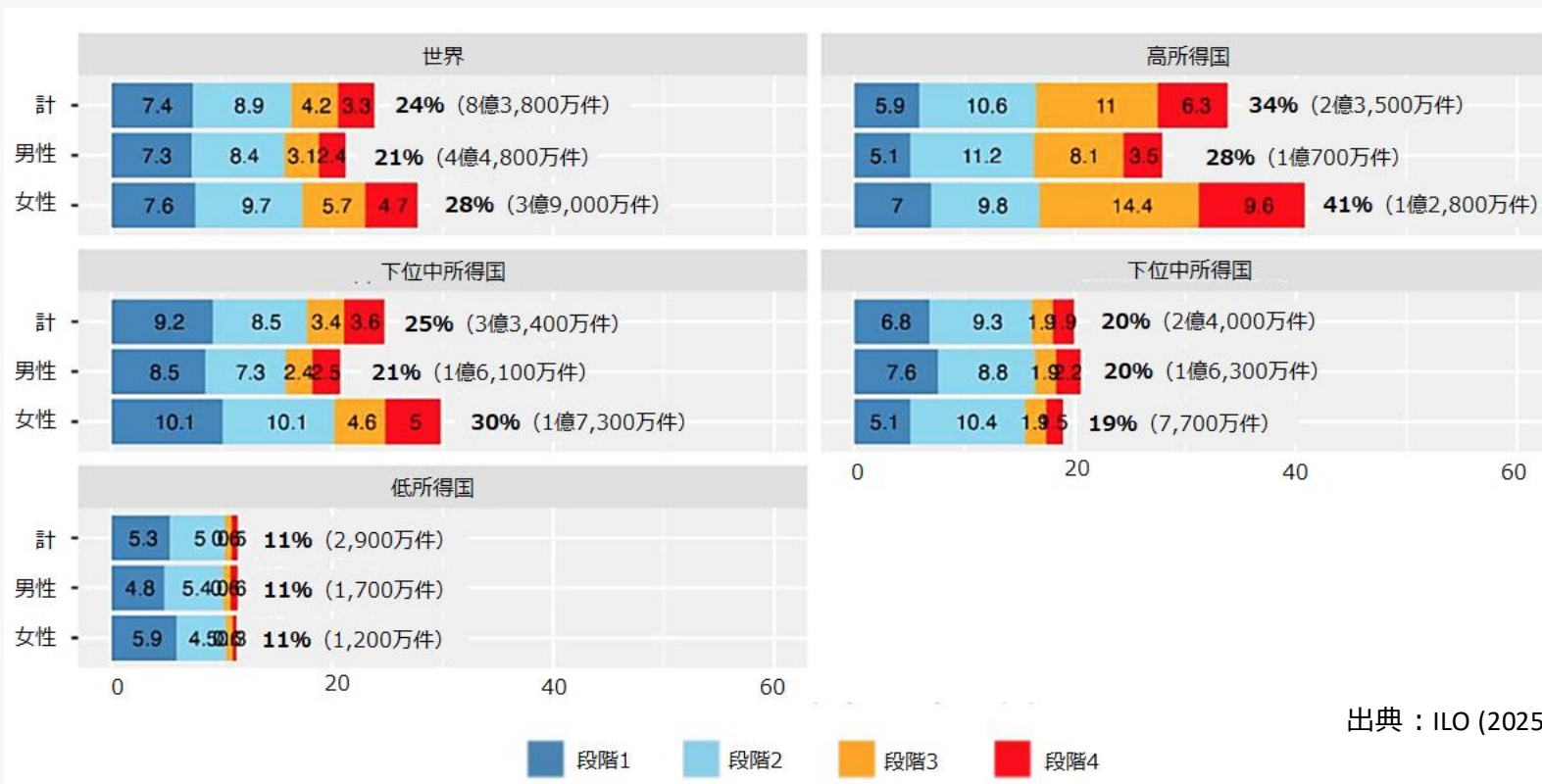
各職業を構成するタスクごとにAIによる自動化の可能性をスコアづけ。

分析対象となる職業は国際標準職業分類（ISCO-08）に基づく436種

段階1は、タスクレベルでばらつきが大きく、職業レベルでの影響は小さい～段階4は、ほぼすべてのタスクが均一に大きな影響を受けており、職業レベルで生成AIによる自動化の可能性が高い

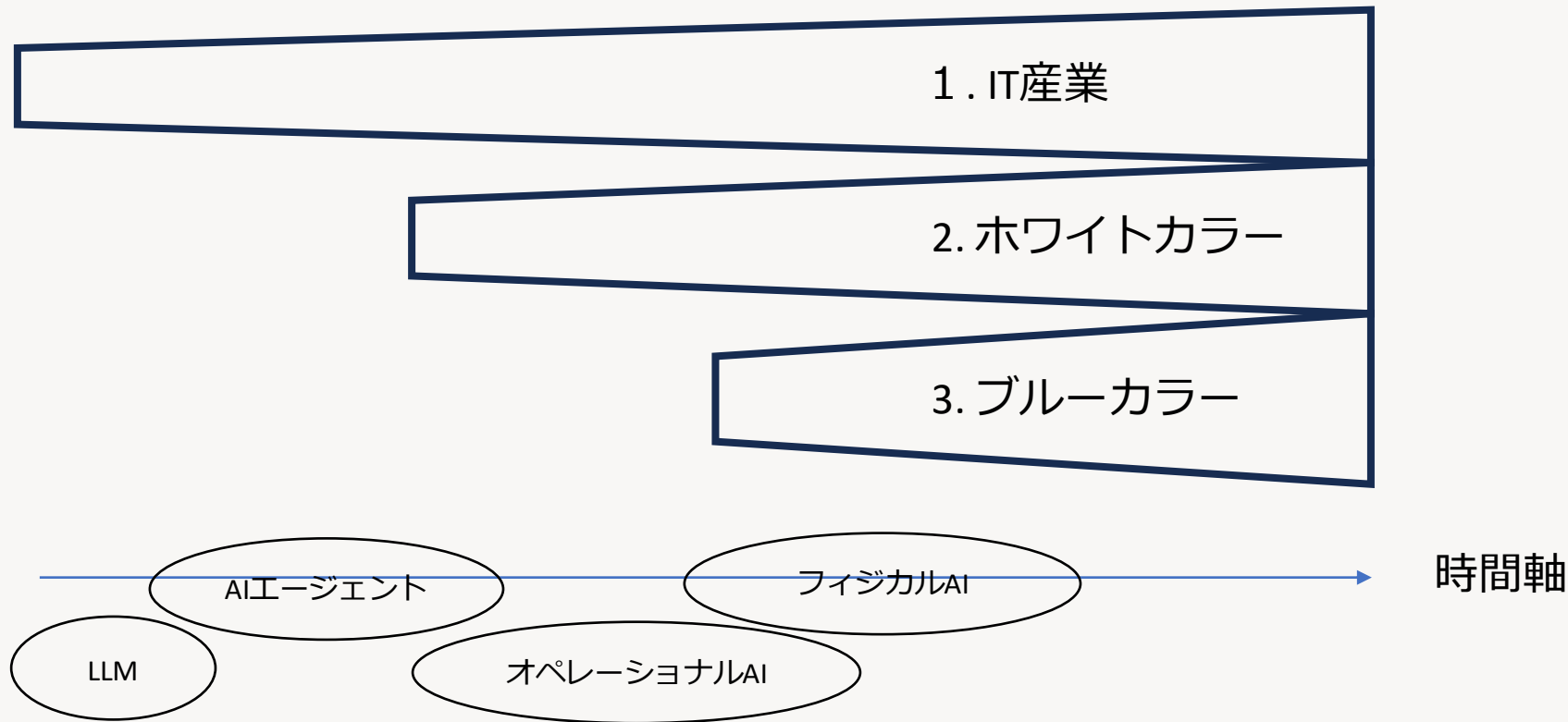


影響の大きさは男女で異なり、影響を受ける雇用の割合は、男性は21%であるのに対して、女性は28%にのぼる。これは、女性が多く就業する事務職でAIによる自動化リスクが高いためであると考えられる。特に、第4段階では男女差が顕著であり、これらに該当する雇用は男性が2.4%であるのに対し、女性は4.7%に達し、2倍。

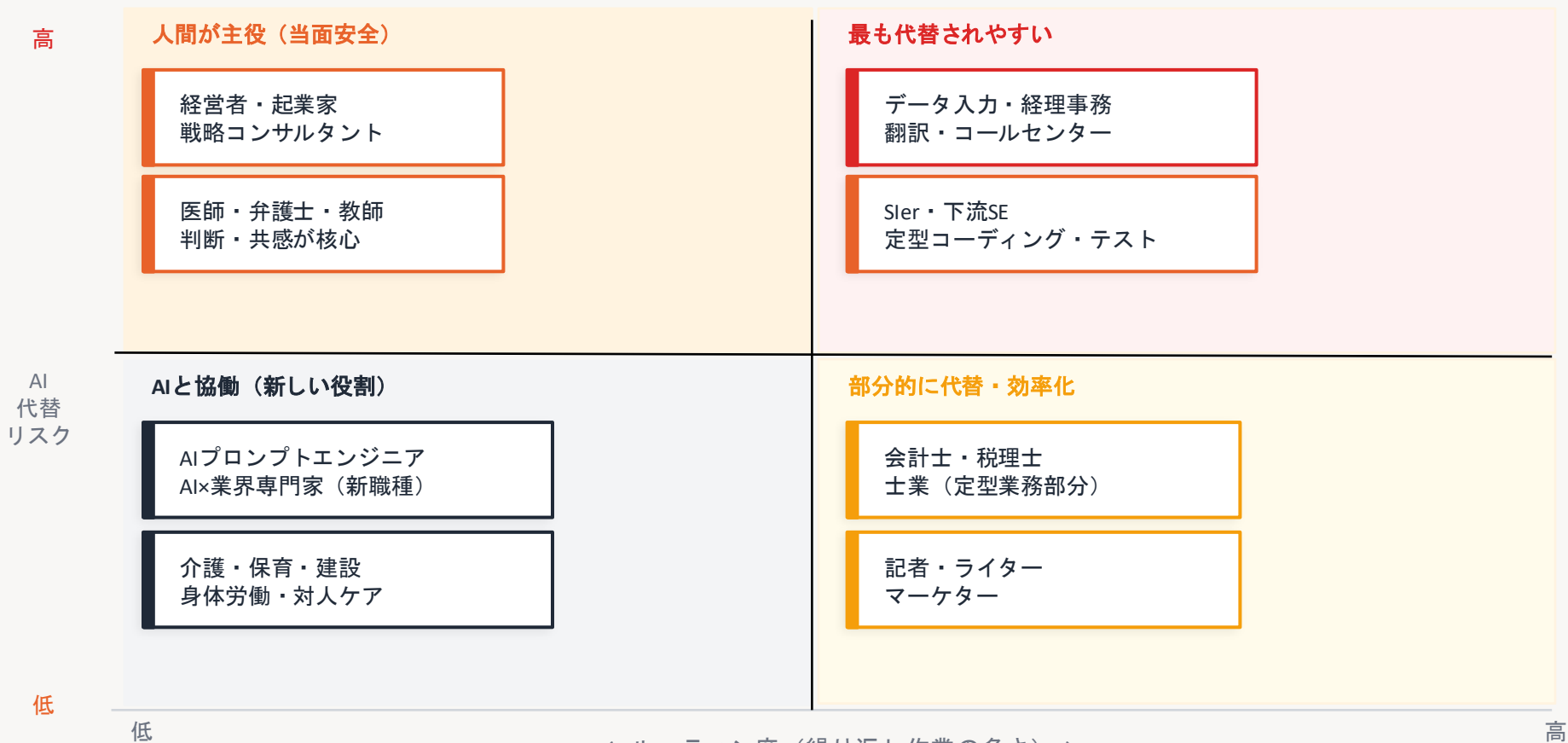


AIが各産業に影響を及ぼす

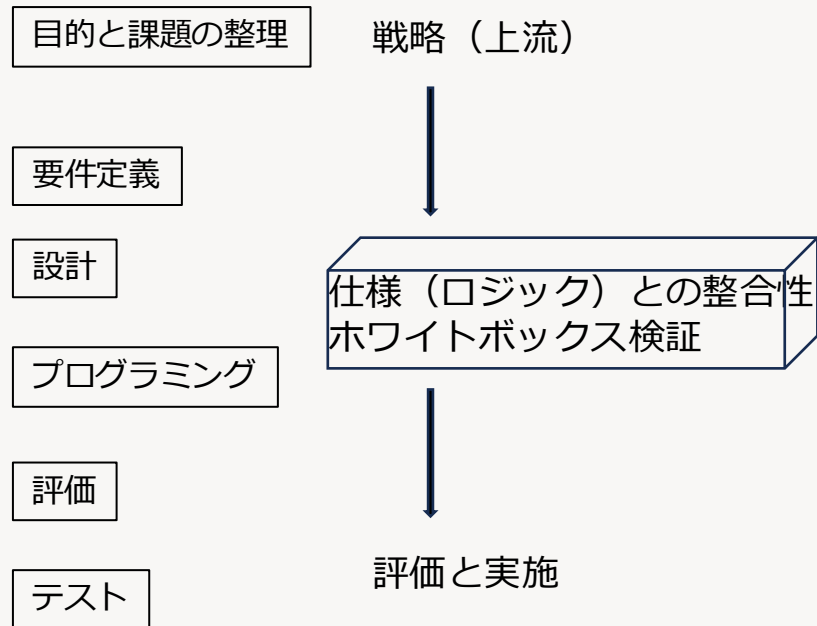
AIはすでにIT産業を侵食、次にホワイトカラー、次にブルーカラーの順に仕事を代替する。



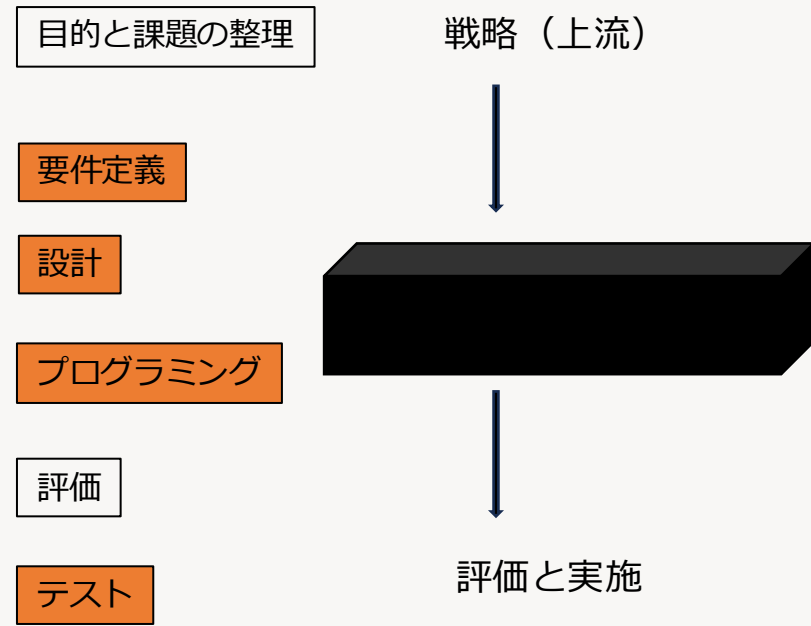
職業カテゴリー別AI影響マップ



従来のITシステム



AIが作るシステム



AI時代に求められる スキル

どんな職業がなくなるのか？ 果たして職業はなくなるのか？
重心の移動—全体の設計

ハードスキル — 特定の業務を遂行するための専門知識

会計・法律知識・プログラミング・語学・データ分析・資格

 AI: AIに最も侵食されやすい。ただし「AIを使いこなす能力」は逆に価値が上がる

ソフトスキル — 人間関係・対人能力

コミュニケーション・リーダーシップ・共感・交渉・チームワーク

 AI: AIには代替しにくい。「AIと人間の橋渡し」という新しい役割が加わる

メタスキル — 学び方を学ぶ能力 ★最重要

批判的思考・問いを立てる力・適応力・AI活用力・自己認識

 AI: 最もAIに代替されず、他のすべてのスキル習得の土台になる

重要な視点：「職業」ではなく「タスク」が変わる — 弁護士は残る → 判例調査はAIへ。残るのは判断・共感・責任

AI時代に求められるスキル：具体化

具体的なスキル

AI時代の価値変化

ハード スキル

定型データ処理・基礎翻訳

価値低下 ▼

定型レポート・資料作成

価値低下 ▼

AI活用・プロンプト設計

価値上昇 ▲

データリテラシー・AI検証力

価値上昇 ▲

ソフト スキル

表面的なコミュニケーション

横ばい →

共感力・信頼構築

価値上昇 ▲

リーダーシップ・動機づけ

価値上昇 ▲

AI出力を人に翻訳する力

新たに必須 ★

メタ スキル

学び方を学ぶ・批判的思考・問いを立てる力

最重要 ★★

適応力・学習継続力

最重要 ★★

AIと人間の役割を判断する力

新たに必須 ★

- 1) 初等教育を、記憶から「学び方を学ぶ」「問いを立てる力」へ重点を移す
- 2) 基礎学力はむしろ重要になる
価値が上がる：哲学、文学、コミュニケーション、数学、物理学、クリティカルシンキング、倫理学
- 3) デジタルとAIのリタラシー教育（底上げ）、システム思考（システム設計）
- 4) AIによる業務の変更のためのトレーニング（企業内、スクール）

例：AIがコーディングの大部分を行うようになって、プログラミングの基本知識は必要。その上で、AIができることとできないことを理解し、AIアシストプログラミングの学習、アウトプットに責任がもてる知識を学ぶ。コミュニケーションと判断力、リーダーシップなどを組み合わせる。

5) 女性のリスクリングのための、より柔軟なスケジュール設定、チャイルドケア、メンター制度、キャリアガイダンス

6) 各産業別、各業務別にAIとの棲み分けとAIによる業務の変更を学ぶためのトレーナーの育成

7) AIが業務範囲を広げるスピードに合わせるべくアジャイルな組織づくり

Gender Equality